

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【公開番号】特開2015-137884(P2015-137884A)

【公開日】平成27年7月30日(2015.7.30)

【年通号数】公開・登録公報2015-048

【出願番号】特願2014-8440(P2014-8440)

【国際特許分類】

G 04 B 19/10 (2006.01)

【F I】

G 04 B 19/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月6日(2017.1.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

【図1】本発明の一実施形態に係るアンテナ内蔵式電子時計100(電子時計100)を含むGPSシステムの全体図である。

【図2】電子時計100の平面図である。

【図3】電子時計100の一部断面図である。

【図4】電子時計100の一部の分解斜視図である。

【図5】電子時計100の回路構成を示すブロック図である。

【図6】電子時計100のダイヤルリング83の一部破断斜視図である。

【図7】電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す一部破断斜視図である。

【図8】電子時計100のダイヤルリング83を示す斜視図である。

【図9】インデックス86を示す斜視図である。

【図10】電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す断面図である。

【図11】電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態の一部を示す斜視図である。

【図12】電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す平面図である。

【図13】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83を示す一部破断斜視図である。

【図14】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す一部破断斜視図である。

【図15】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す断面図である。

【図16】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す一部破断斜視図である。

【図17】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す一部斜視図である。

【図18】本発明の第2実施形態における電子時計100のダイヤルリング83にインデックス86を取り付けた状態を示す断面図である。

【図19】本発明の第3実施形態における電子時計101の平面図である。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

カバーガラス84の下側(裏面側)には、ベゼル82の内周に沿って、プラスチックなどの非導電性材料で形成されたリング状(円環状)のダイヤルリング83が設けられている。ダイヤルリング83は、文字板11の半径方向における内側に延びて形成された突出部83aを備えている。突出部83aには、真鍮やステンレス等の金属で形成された指標部材としてのインデックス86が固定されている。ダイヤルリング83とインデックス86とは別体である。突出部83a及びインデックス86の詳細について後述する。また、ダイヤルリング83の下側には、ケース胴81の内周よりも内側に、プラスチックなどの非導電性材料で形成された地板38が設けられている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0067

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0067】

前記突出部83aには、図9に示すような形状のインデックス86が取り付けられる。インデックス86は先端部が傾斜しているが、その他の胴体部分は一定の厚みで形成されている。図9は突出部83aの平面部83bと接触する面が図9において上方になる向きのインデックス86を示す斜視図である。図9に示すように、インデックス86には、突出部83aの2つの第1孔部83cと嵌め合わされる2つの凸部86aが設けられている。本実施形態では、図7及び図10に示すように、インデックス86の凸部86aと、突出部83aの第1孔部83cとを嵌め合わすようにして、インデックス86を突出部83aに取り付け、仮り止めする。突出部83aの平面部83bを表側とすると、その裏側の面には、図11に示すように第2孔部83dが形成されている。第2孔部83dは、図6に示すように、第1孔部83cと連通して形成されている。本実施形態においては、第2孔部83d側から接着剤を注入(塗布)し、インデックス86の凸部86aを、突出部83aの第1孔部83cに接着させることで固定させている。したがって、接着剤が見えないため、美観を損なうことがない。